

令和8年3月15日

鹿児島(垂水・佐多)出張 報告書

氏名: 吉田兼成

所属: 名古屋大学宇宙地球環境研究所電磁気圏研究部/塩川研究室

滞在期間: 令和8年3月4日～令和8年3月5日

私は、上記の日程で鹿児島県にある垂水および佐多の観測施設に指導教員の塩川教授とD1学生のSefria Anggraniさんと滞在し、落雷被害を受けた観測機器の再設置や、ネットワーク環境の構築、および保守作業などを行った。



まず、垂水の上の台地での作業として、落雷によって破損し

図1 垂水での誘導磁力計のセンサーの再設置の様子

修理が完了した誘導磁力計のセンサーおよびアンプの再設置を行った(図1)。また、アンプ小屋において、新たにLTEネットワークの設置作業を行い、通信環境の整備を実施した。加えて、データ回収のため、VLF電波受信機用PCの2TBポータブルHDDを取り外し、持ち帰る作業を行った。



続いて、佐多での作業として、垂水と同様に落雷の被害を受けて修理した全天カメラ(Z001)の再設置を行った(図2)。また誘導磁力計の保守作業として、地表に露出・劣化したセンサーケーブルの埋め直し作業を実施し、安定した観測環境の維持に努めた。

図2 佐多での全天カメラの再設置の様子

今回の出張を通じて、落雷による機器の破損現場を実際に確認し復旧作業に携わることで、観測インフラの維持・管理の重要性を学ぶとともに、観測所におけるネットワーク構築などの実務的な経験を積むことができた。